

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。
さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、また医療の進歩に寄与すべく絶えず検査領域の拡大に努めておりますが、このたび、下記項目の受託を開始することになりました。
取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- 25OHビタミンD[ECLIA] :項目コード 5081

受託開始日

平成30年10月22日(月)受託分より新規受託開始

※ 詳細につきましては、裏面の内容をご参照願います。



保健科学研究所	〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町106	TEL.045-333-1661
保健科学東日本	〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神3-673	TEL.048-543-4000
保健科学西日本	〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町328	TEL.075-933-6060
保健科学東京	〒160-0001 東京都新宿区片町3-3	TEL.03-3357-3611
保健科学新潟	〒950-0054 新潟県新潟市東区秋葉1-6-31	TEL.025-275-0161

新規受託項目

項目コード	検査項目 JLAC10	検体 必要量	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
5081	25OHビタミンD 〔ECLIA〕 3G065-0000-023-053-01	血清 0.4 mL	A1-1 冷蔵	ECLIA法 〔電気化学発光 免疫測定法〕	ビタミンD充足状態 30.0 以上 ビタミンD不足 20.0~29.9 ビタミンD欠乏 20.0 未満 ng/mL	2~4 日	117 生化(I)	*イ

検査場所: 保健科学 第3ラボラトリー(略号:*イ)

留意事項

- ・ 本検査は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法により測定した場合にのみ算定できる。ただし、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定する。
- ・ 本検査を行う場合には、関連学会が定める実施方針を遵守すること。

▼ 臨床的意義

ビタミンDは、主として日光への暴露により皮膚で産生される脂溶性のステロイドホルモン前駆体です。生物学的には不活性なビタミンDがホルモン活性のある活性型ビタミンD(1,25(OH)2D)へと変化するには、肝臓及び腎臓で連続して水酸化される必要があります。主要なビタミンDにあたるビタミンD3(コレカルシフェロール)とビタミンD2(エルゴカルシフェロール)のうち、ビタミンD2はビタミンD3とは異なり体内で合成できないため、食品もしくはサプリメントとして摂取するより他ありません。

ビタミンD3やビタミンD2は血漿中ではビタミンD結合タンパク質と結合しており、肝臓に輸送されると25位が水酸化されたビタミンD、すなわち25(OH)Dへと変化します。25(OH)Dは生体内におけるビタミンDの主要な貯蔵形態であることから、全身のビタミンD状態を表す代謝物質として広く認められています。25(OH)Dは血中を循環するビタミンDの主要な形態で生物学的には不活性、血中濃度は活性型ビタミンDのほぼ1,000倍、血中半減期は2~3週間です。血清中の25(OH)Dの大部分は25(OH)D3であるのに対し、25(OH)D2が測定可能な濃度域に達するのはビタミンD2サプリメントを服用している患者に限られ、その影響は比較的にかさいと考えられています。

ビタミンDは骨の健康にとって不可欠です。深刻な欠乏症は小児において、くる病として知られる骨の奇形を引き起こします。より軽度の不足は、食事由来のカルシウムの利用効率を低下させます。ビタミンD欠乏は筋力の低下を引き起こし、高齢者においては筋肉に対するビタミンD作用の低下は転倒リスクにつながります。ビタミンD欠乏は二次性副甲状腺機能亢進症の一般的な原因であり、特にビタミンD欠乏状態にある高齢者において、PTH値の上昇は骨軟化症、高骨代謝回転、骨量減少及び骨折リスク上昇を招く可能性があります。また、25(OH)Dの低値は低骨密度と関連することから、その測定結果は骨代謝評価の補助に利用される場合があります。さらにビタミンDは200以上の異なる遺伝子の発現に影響すること、ビタミンD不足は糖尿病・各種の癌・心血管疾患・自己免疫疾患・先天性の免疫能と関連することがこれまでに示されています。

▼ 検査方法参考文献

Blackburn, G. F. et al. :Clin. Chem 37(9):1534. 1991